

NAM コレクション 2024 III期

2024年10月10日（木）～12月17日（火）

もうひとつの風景

ゲストキュレーター：原田裕規



出品リスト

- ・リストの掲載順は展示順と異なることがあります。
- ・出品作品は諸般の事情により変更となる場合があります。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (cm)
疎開作家が見つめていたもの				
石井柏亭	麦秋	1949（昭和24）年	油彩、カンヴァス	72.7 × 116.7
石井鶴三	風 試作	1956（昭和31）年	ブロンズ	h 78.3
奥村土牛	白日（ひまわり）	1949（昭和24）年	絹本彩色	110.5 × 140.3
伊東深水	キュウリとスイッチョ	1944（昭和19）年	紙本彩色	27.5 × 39.5
伊東深水	みょうが	1944（昭和19）年	紙本彩色	27.5 × 39.5
伊東深水	松茸 1	1944（昭和19）年	紙本彩色	27.5 × 39.5
伊東深水	生姜	1944（昭和19）年	紙本彩色	27.5 × 39.5
伊東深水	とうもろこしと南瓜	1945（昭和20）年	紙本彩色	55.0 × 37.5
伊東深水	枝豆と初茸	1945（昭和20）年	紙本彩色	55.0 × 37.5
伊東深水	雨後の強風千曲川	1945（昭和20）年	紙本彩色	75.0 × 55.0
伊東深水	浅間山麓の春	1948（昭和23）年	紙本彩色	35.0 × 52.0
北アルプス、長野、浅間山				
* 信濃デッサン館コレクション				
吉田博	白馬鎗岳	1929（昭和4）年	木版、紙	12.6 × 17.6
不破章	志賀	1974（昭和49）年	水彩、紙	38.2 × 56.6
田村一男	白馬大雪	1981（昭和56）年	油彩、カンヴァス	89.4 × 145.5
松木重雄	白馬連峯	1980（昭和55）年	油彩、カンヴァス	65.1 × 80.6
河野通勢	裾花川風景	1915（大正4）年	コンテ、紙	29.1 × 38.5
河野通勢	裾花川風景	1915（大正4）年	インク、紙	29.1 × 38.3
河野通勢	長野の近郊（長野風景）	1915（大正4）年	油彩、カンヴァス	130.3 × 193.9
横井弘三	浅間山風景	1949（昭和24）年頃	油彩、カンヴァス	72.8 × 91.0
石井鶴三	村山槐多デスマスク	1919（大正8）年	ブロンズ	27.5 × 21.0 × 13.0 *
村山槐多	浅間風景	1915（大正4）年	鉛筆、紙	14.3 × 23.0 *
八ヶ岳、御嶽山、荒野				
** 特別出品 / 作家蔵				
*** 特別出品 / 個人蔵				
松澤宥	「荒野におけるアンデパンダン' 64」 広告（『美術ジャーナル』No.51）	1964（昭和39）年		***

作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (cm)	
撮影：原田裕規	資料写真「八島湿原」	2024 (令和 6) 年			**
田村一男	初秋 (霧ヶ峰高原七島八島)	1967 (昭和 42) 年	油彩、カンヴァス	89.5 × 145.5	
小堀進	山	1961 (昭和 36) 年	水彩、紙	65.0 × 104.0	
田村一男	暁色	1977 (昭和 52) 年	油彩、カンヴァス	89.6 × 145.5	
荻原孝一	天狗岳	不詳	油彩、カンヴァス	112.4 × 144.7	

台湾へ、米国へ

菱田春草	月下群鷺	1901 (明治 34) 年	絹本彩色	208.2 × 65.4	
西郷孤月	月下飛鷺	1901 (明治 34) 年頃	絹本彩色	213.4 × 62.7	
西郷孤月／横山大観	春曙・春の朝	1901 (明治 34) 年頃	絹本彩色	各 82.7 × 35.3	
菱田春草／横山大観	春曙・秋夜	1907 (明治 40) 年	絹本彩色	各 114.6 × 49.0	
西郷孤月／菱田春草 ／横山大観	月夜山水	1901 (明治 34) 年頃	絹本彩色	129.5 × 53.0	
赤羽雪邦	米国風景	1914 (大正 3) 年	絹本彩色	140.8 × 60.3	

諏訪湖が見る絵とは？

松澤宥	《すべての生物および無生物の ための白紙絵画》	1967 (昭和 42) 年	印刷、紙	14.8 × 10.0	
松澤宥	《湖に見せる根本絵画展》	1967 (昭和 42) 年	印刷、紙	14.8 × 10.0	
松澤宥	《霧と霊に見せる絵画展》	1967 (昭和 42) 年	印刷、紙	14.8 × 10.0	
松澤宥	《絵に見られる松沢宥展》	1967 (昭和 42) 年	印刷、紙	14.8 × 10.0	
松澤宥	《死に見せ乳房を見る根本絵画展》	1967 (昭和 42) 年	印刷、紙	14.8 × 10.0	
松澤宥	《見ない絵画と見えない絵画展 -EXPO'70 の反存在のための啓示 -》	1967 (昭和 42) 年	印刷、紙	14.8 × 10.0	
松澤宥	《眠れるエネルギーに見せる絵 (世界最後の絵画展)》	1968 (昭和 43) 年	印刷、紙	14.8 × 10.0	
金山平三	結氷	1931 (昭和 6) 年	油彩、カンヴァス	60.8 × 91.0	
大久保作次郎	諏訪湖雪景	1921 (大正 10) 年	油彩、カンヴァス	72.8 × 91.0	
原田裕規	湖に見せる絵 (海辺の僧侶)	2022 (令和 4) 年	"ビデオ (4K、カラー、サウンド)" 7分 57秒 パフォーマンス：原田裕規 シネマトグラフィー：渡辺真太郎 撮影アシスタント：田中西 協力：青木英侃、富井玲子、松澤久美子 ロケーション：諏訪湖		**

郷愁とリフレクション

原田裕規	ホーム・ポート	2023(令和 5) 年	インクジェットプリント	103 × 60.6	**
川瀬巴水	信州松原湖	1941 (昭和 16) 年	木版、紙	24.3 × 36.5	
川瀬巴水	信州木崎湖	1941 (昭和 16) 年	木版、紙	24.3 × 36.5	
川瀬巴水	安庭の雨	1946 (昭和 21) 年	木版、紙	24.3 × 33.4	
川瀬巴水	木曾の須原	1925 (大正 14) 年	木版、紙	20.8 × 28.5	
川瀬巴水	長野県稲荷山	1947 (昭和 22) 年	木版、紙	24.4 × 36.4	

NAM コレクション 2024 III期 もうひとつの風景 出品作家解説

赤羽 雪邦 あかばね・せっぽう

1865（慶応元）～1928（昭和3）

信濃国東筑摩郡並柳村（現・長野県松本市）生まれ。本名順次、のちに知足。仙石翠淵の画塾で絵を学んだ後、京都で尾崎雪翁に、東京で橋本雅邦に師事した。1889（明治22）年に東京美術学校が設立されると、横山大観、西郷孤月らとともに一期生として入学。1899年、全国絵画共進会で一等褒状を受ける。1904年に渡米、日本画の紹介と洋画研究につとめ、1918（大正7）年に帰国するまで15年近くアメリカに滞在した。

石井 鶴三 いしい・つるぞう

1887（明治20）～1973（昭和48）

東京生まれ。父の石井鼎湖、長兄の石井柏亭はともに画家。不同舎に入り小山正太郎に学ぶ。1905（明治38）年に東京美術学校へ入学し、1911年の第5回文展に入選。1913（大正2）年に研究科を修了したのは、日本美術院研究所で学び、1915年の再興第2回院展に《力士》を出品し、院友となる。日本美術院を中心に彫刻家として活躍する傍ら、創作版画協会の設立に携わり、また新聞諸説の挿絵を手掛けるなど多彩な活動が知られている。

石井 柏亭 いしい・はくてい

1882（明治25）～1958（昭和33）

東京生まれ。日本画家・石井鼎湖の長男。本名満吉。幼少期は、父の鼎湖に日本画を学び、父亡きあとは浅井忠、中村不折に師事し洋画を学んだ。1902（明治35）年に明治美術会の後身として結成された太平洋画会会員となる。1907年、創作版画を普及する目的で山本鼎、森田恒友と雑誌『方寸』を創刊。その他パンの会・日本水彩画会・二科会・一水会などを創立、日本の近代美術の発展に大いに貢献する。帝国美術院・帝国芸術院・日本芸術院会員。

伊東 深水 いとう・しんすい

1898（明治31）～1972（昭和47）

東京生まれ。本名は一。父が事業に失敗し、小学校を中退、看板工や活字工、石版画工となり水野年方門下の中山秋湖について日本画の手ほどきを受ける。1911（明治44）年に鍋木清方に師事し、翌年から巽画会や日本美術院に出品。1916（大正5）年に版元・渡邊庄三郎の下で絵師・彫師・摺師による分業制の新作版画の制作に着手し、美人を題材とした版画の他、『近江八景』など風景版画も多数手掛けた。日本画においては美人画家として知られ、昭和期の帝展や日展で活躍した。

奥村 土牛 おくむら・とぎゅう

1889（明治22）～1990（平成2）

東京生まれ。本名は義三。1905（明治38）年に梶田半古の画塾に入門、主に小林古徑の指導を受ける。1927（昭和2）年に《胡瓜畑》で院展初入選を果たし、1932年には同人に推挙される。1947年帝国芸術院会員に任命され、また戦中から戦後にかけて文展や日展の審査員を務めた。1962年文化勲章を受章、1978年には日本美術院理事長に任命される。写生を基礎に奥行きを減らし、対象を切り取り、拡大して迫る姿勢を貫いた。

金山 平三 かなやま・へいぞう

1883（明治16）～1964（昭和39）

兵庫県生まれ。東京美術学校で黒田清輝の指導を受ける。同校を首席で卒業後、1912（明治45）年渡欧、パリのアトリエを拠点に各地へと写生旅行し、帰国後1916（大正5）年の文展で《夏の内海》が特選を受賞。1935（昭和10）年帝展改組に伴い結成された第二部会に参加するが、翌年の分裂後は画壇から離れる。1944年帝室技芸員に任命。戦後は日本芸術院会員に任命され、日展顧問も務めながら、絵の具を混ぜずに、大きな筆致で光を捉えた風景画を数多く残した。

川瀬 巴水 かわせ・はすい

1883（明治16）～1957（昭和32）

東京生まれ。本名は文治郎。はじめ川端玉章門下の青柳墨川、荒木寛友の下で日本画を、1908（明治32）年に葵橋洋画研究所に入り岡田三郎助に洋画を学ぶ。1910年に鍋木清方に師事し、「巴水」と命名される。1915（大正4）年清方門下による郷土会第1回展に出品。1918年渡辺版画店より版画による処女作3図を出版。以来、日本全国をたずねて描いた写生をもとに、「旅みやげ」「日本風景選集」など数多くの風景版画を送り出した。

河野 通勢 こうの・みちせい

1895（明治28）～1950（昭和25）

出生地については、長野県上水内群長野町（現・長野市）とする説と、群馬県伊勢崎市とする説がある。早くから師範学校の画学教師であった父・次郎の薫陶を受け、旧制長野中学（現・長野高校）卒業後に第1回二科展に出品し、初入選。1917（大正6）年に上京すると、岸田劉生らと交遊し、草土社同人となった。のちに春陽会、大調和会、国画会等で活躍。独特の細密描写で大正期の洋画界に異彩を放った。

西郷 孤月 さいごう・こげつ

1873（明治6）年～1912（大正元）年

長野県松本土井尻（現・松本市）生まれ。本名は規^{めぐる}。1889（明治22）年、東京美術学校に第一期生として入学し、修了後助教授となるが、1898年岡倉天心と共に辞職。同年、天心と橋本雅邦が率いた日本美術院に参加し、横山大観、菱田春草、下村観山と共に四天王と呼ばれる。1897年第3回絵画共進会に《春暖》を出品、銅牌一席となった。1903年に渡航資金調達のため「孤月会」を興すが挫折。日本美術院を離れたのち、晩年は地方漫遊を繰り返し、流浪の果て台湾で病を得、東京に戻り没した。

田村 一男 たむら・かずお

1904（明治37）～1997（平成9）

東京生まれ。1924（大正13）年、本郷洋画研究所に入所。同年、研究所で知り合った彫刻家・矢崎虎夫の実家に近い蓼科高原を訪問、信州の雄大な自然に感銘を受け、信州の山岳や高原を多く題材にするようになった。1928（昭和3）年、《赤山の午後》で帝展に初入選。1931年の第18回光風会展での入選により、画家の道を決意し、以降光風会展や日展に出品。1980年、日本芸術院会員となると翌年には光風会理事長に就任。1992（平成4）年、文化功労者に選ばれた。

菱田 春草 ひしだ・しゅんそう

1874（明治7）～1911（明治44）

筑摩県伊那郡飯田町（現・飯田市）生まれ。本名は三男治。結城正明に師事した後、東京美術学校に学ぶ。1895（明治28）年同校を卒業。岡倉天心、橋本雅邦の指導を受け、1898（明治31）年日本美術院の創立に参画。横山大観、下村観山、西郷孤月とともに四天王と呼ばれ、第1回文展に《賢首菩薩》を出品し二等賞を受賞。その後も代表作を出品し、受賞を重ね、古画と洋画の研究を通じて、日本画の革新に尽力した。

松澤 宥 まつざわ・ゆたか

1922（大正9）～2006（平成18）

長野県諏訪郡下諏訪町生まれ。1946（昭和21）年に早稲田大学理工学部建築学科を卒業。1949年から1982年まで諏訪実業高校定時制下諏訪分校で数学を教える。1955年にフルブライト交換教授としてアメリカに留学し、1957年帰国。読売アンデパンダン展などで絵画・オブジェ作品を発表する。1964年からは言葉や行為による「観念芸術」を開始し、仏教思想や宇宙物理学などを引用した独自の表現を深めた。

村山 槐多 むらやま・かいた

1896（明治29）年～1919（大正8）年

神奈川県生まれ（愛知県説もあり）。京都で幼少期を過ごす。中学時代に、従兄の山本鼎の影響を受けて絵画の創作をはじめ、文学と美術で早熟の才能を発揮する。1914（大正3）年、上京。小杉未醒宅に寄寓し、日本美術院研究所に入所、洋画を学ぶ。二科展、日本美術院展に出品し、1915年、第2回日本美術院展に出品した《カンナと少女》で院賞を受賞。放浪と退廃の生活を送り、結核に冒され夭折した。

横山 大観 よこやま・たいかん

1868（明治元）～1958（昭和33）

常陸国（現・茨城県）生まれ。本名は秀磨。1889（明治22）年、東京美術学校第一期生として入学、岡倉天心や橋本雅邦に薫陶。卒業後、同校にて助教授となるが、1898年の美術学校騒動に際して天心と共に辞職、日本美術院の創立に参加。1903年にインド、翌年から2年間欧米を歴訪。1914（大正3）年、下村観山らと共に日本美術院を再興、日本画壇の中心的な存在として活躍する。1937（昭和12）年第1回文化勲章受章。

吉田 博 よしだ・ひろし

1876（明治9）～1950（昭和25）

福岡県生まれ。旧姓は上田。図画教師・吉田嘉三郎の養子となり、はじめ京都の田村宗立に師事。1894（明治27）年上京し、小山正太郎主宰の不同舎で学ぶ。1899年中川八郎と共に渡米、各地で展示会を開いた後、欧州を巡る。帰国後の1902年、満谷国四郎らと共に太平洋画会を結成。1907年第1回文展で三等賞受賞、以後官展や太平洋画会で活躍する。1936（昭和11）年日本山岳画協会を結成。絵画のほか自身の工房で版画制作に取り組み、風景を題材にした多色摺木版を多数残した。

